

OBIS 日本ノードの設立と今後の展望

○田中克彦（海洋研究開発機構），窪寺恒己（国立科学博物館），佐々木猛智（東京大学総合研究博物館），佐藤直人（環境省自然環境局生物多様性センター），白山義久（海洋研究開発機構），杉崎宏哉（水産総合研究センター），勢田明大（海上保安庁海洋情報部），園田朗（海洋研究開発機構），華房康憲，菱木美和，藤倉克則，古島靖夫，丸山正，山本啓之

ある生物が「いつ」「どこで」採集・観察されたか，という生物の出現記録は，野外生物調査において必然的に生じる基本情報であり，各生物の分布，あるいは各地域の生物多様性を把握・予測するために必要不可欠なデータである．近年，そうした生物出現記録が大規模なデータベースに集積され，オンラインで自由にアクセスできるようになった．このうち，海洋生物に関するデータベースとしては，Census of Marine Life によって構築され，現在，ユネスコ政府間海洋学委員会のもと国際海洋データ・情報交換システムが運用している Ocean Biogeographic Information System (OBIS) が存在し，そのデータを利用した全球規模の海洋生物の多様性解析などが試みられている．

現在，OBIS には 14 万種を超える海洋生物についての 3.3 千万件の出現記録が集積されており，海洋生物多様性の研究の上で重要なデータソースになりつつある．しかしながら，日本周辺のデータは 5.3 千種についての 13.5 万件の記録にとどまっており，日本産の海洋生物既知種数が約 3.4 万種と推定されていることを考慮すると，きわめて乏しい．このデータのギャップは，日本周辺の海洋生物多様性を正確かつ詳細に把握する上で十分であるとは言えず，日本周辺を含むマクロ～メソスケールの海洋生物多様性や生態系に関わる研究を推進していくために，より多くの情報を収集・統合していく必要がある．

OBIS における日本周辺のデータの欠乏は国内拠点の不在と密接に関連しているとみられる．OBIS は各国あるいは各地域にノードと呼ばれる拠点を設置し，各ノードはそれぞれがカバーする国・地域のデータの収集・とりまとめにあたってきたが，日本ノードは実質的に活動していなかった．海洋研究開発機構は，2010 年より，OBIS Japan として機構が保有する深海生物のデータの OBIS への提供を開始したが，日本近海の多様な海洋生物を網羅するには力不足であった．そこで，2012 年 6 月，日本国内のデータの収集・統合を目的として，OBIS 日本ノード Japan Regional OBIS Node (J-RON) <http://www.jamstec.go.jp/obis_j/index.html> と関係各機関の代表者からなる J-RON 運営委員会が設立された．本発表では，J-RON の目的，体制，データ収集の

Copyright 2012 Japan Regional OBIS Node サイトポリシー

現状，連携プロジェクトおよび今後の展望等について紹介したい．

J-RON ホームページトップ画面